

献呈の辞

湯浅邦弘先生は、令和五年三月末日をもって、定年を迎えられる。

湯浅先生は島根県出雲市でお生まれになり、島根大学教育学部、大阪大学大学院文学研究科で学ばれ、大阪大学助手を経て、北海道教育大学、島根大学に勤務された後、平成七年四月に大阪大学大学院文学研究科に着任、三十年近くにわたり大阪大学にて研究・教育に尽力された。指導を受けた学生の中には、研究者の道に進んだ者も少なくない。

湯浅先生の専門は中国哲学、特に新出土文献を活用した中国古代思想史の研究、および大阪大学の源流と位置づけられる「懐徳堂」の研究を中心とされた。本号に収録されている研究業績一覧からも一目瞭然であるように、先生の研究は広範かつ深奥である。また、国際的な学術交流にも積極的に取り組んでこられた。湯浅先生の功績は、枚挙に暇がない。

大阪大学中国学会についても、前任の加地伸行先生の後を受け、長く代表を務められ、本学会のために尽力された。その間に刊行された『中国研究集刊』は四十六冊にのぼる。数多くの論考を掲載し、常に最新の研究成果を意欲的に発信してきた本誌の学界への貢献は明らかであろう。

そこで、湯浅先生に感謝の意を表すべく、学術専門委員兼編集委員一同が発起人となり、先生との関係が深い方々、具体的には大阪大学中国学会の会員であり、かつ湯浅先生の後輩および受業者の論考をもって、『中国研究集刊』第六十九号を「湯浅邦弘教授退休記念号」として編集する運びとなった。本号は多くの方々の協力により完成に至った。

湯浅先生が定年を迎えられ、名誉教授となられることをお慶びするとともに、ここに記念号を献呈し、これまでのご教導に対して心から感謝の念を表したい。

「退休」という言葉が似合わない湯浅邦弘先生のご健勝と益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。

令和五年三月二十九日

大阪大学中国学会湯浅邦弘教授退休記念号編集委員会